

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学ⅡB	
科目基礎情報							
科目番号	1921005			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	新基礎数学（大日本図書）、新線形代数（大日本図書）、新基礎数学問題集（大日本図書）、新線形代数問題集（大日本図書）						
担当教員	菅田 慶						
到達目標							
(1) 加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。 (2) 様々な数列の仕組みを理解し、公式等を用いて計算することができる。 (3) ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。 (4) ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	加法定理を理解し、それを応用して、2倍角の公式などを導出し、適切に利用することができる。			加法定理やそれから導出される公式を適切に利用することができる。		加法定理やそれから導出される公式を使うことができない。	
評価項目2	様々な数列の仕組みを理解し、公式等を用いて複雑な問題を処理することができる。			様々な数列の仕組みを理解し、公式等を用いて計算することができる。		様々な数列の仕組みを理解していない、または公式等を用いて計算することができない。	
評価項目3	ベクトルを用いた解法と用いない解法を比較することにより、ベクトルの有用性について認識している。			ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。		ベクトルの概念を理解していない。	
評価項目4	ベクトルと直線・平面・球の方程式の関係性を深く理解し、複雑な問題を処理することができる。			ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。		ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	(1) 数学を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門的内容を理解する能力を身につける授業を行う。 (2) 1年次に続いて更なる計算技術の定着を目標とする。 (3) 三角関数の基礎を理解し、その応用方法を習得できるように学習する。 (4) 数列の仕組みを理解し、計算方法等の基礎を学習する。 (5) ベクトルの概念を理解し、基礎から応用まで幅広く学習する。 (6) 学習内容の理解を深め、3年次の数学や専門科目に対応できるようにする。						
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	三角関数		加法定理を理解できる。		
		2週	三角関数		加法定理を理解できる。		
		3週	三角関数		加法定理から導出される公式を使うことができる。		
		4週	三角関数		加法定理から導出される公式を使うことができる。		
		5週	三角関数		三角関数の合成を理解できる。		
		6週	三角関数		三角関数の合成を理解できる。		
		7週	前期中間試験・答案返却・解説				
		8週	数列		数列を理解できる。		
	2ndQ	9週	数列		等差数列を理解できる。		
		10週	数列		等差数列の和を理解できる。		
		11週	数列		等比数列を理解できる。		
		12週	数列		等比数列の和を理解できる。		
		13週	数列		いろいろな数列の和を理解できる。		
		14週	数列		漸化式を理解できる。		
		15週	数列		数学的帰納法を理解できる。		
		16週	前期末試験・答案返却・解説				
後期	3rdQ	1週	平面ベクトル		ベクトルの定義を理解し、平面ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。		
		2週	平面ベクトル		ベクトルの定義を理解し、平面ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。		

		3週	平面ベクトル	平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		4週	平面ベクトル	平面ベクトルの内積を求めることができる。
		5週	平面ベクトル	平面において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		6週	空間ベクトル	空間ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。
		7週	空間ベクトル	空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		8週	空間ベクトル	空間ベクトルの内積を求めることができる。
	4thQ	9週	後期中間試験・答案返却・解説	
		10週	空間ベクトル	空間において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		11週	空間ベクトル	空間において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		12週	直線・平面・球の方程式	ベクトル方程式を用いて、直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		13週	直線・平面・球の方程式	直線・平面・球の方程式を用いて応用問題を解くことができる。
		14週	直線・平面・球の方程式	直線・平面・球の方程式を用いて応用問題を解くことができる。
		15週	直線・平面・球の方程式	直線・平面・球の方程式を用いて応用問題を解くことができる。
		16週	学年末試験・答案返却・解説	

評価割合						
	試験	課題	授業態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	100
基礎的能力	70	20	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0